

令和9年度 重点事業要望の要望事項について

1. 要望事項件数

最重点要望 14件
重点要望 9件 計 23件

2. 前年度との比較

(前回)		(前回からの変更点)				(今回)		
区分	8年度要望		新規	区分 変更	取り やめ	増減	9年度要望	
							合計	うち、継続 うち、 一部新規
最重点要望	14	➡	1	0	▲1	0	14	13 2
重点要望	11		1	0	▲3	▲2	9	8 0
計	25		2	0	▲4	▲2	23	21 2

【内 訳】

(1) 新規事項：2件

(最重点) ○ 防災局及び防災大学校（仮称）の設置について

⇒ 八戸市、十和田市及び三沢市は、東日本大震災をはじめとする大規模地震・津波災害への対応を通じて、高い防災力と多くの災害対応の知見を蓄積してきたが、こうした災害対応の実績や各市の優位性は、防災局の政策立案機能や防災大学校（仮称）が担う人材育成、教育訓練及び研究開発機能を展開する上で極めて優れた条件を有していることから、八戸市を拠点とした十和田市、三沢市との広域連携による防災局及び防災大学校（仮称）の設置に関する国への働きかけについて、新規に要望するもの。

(重 点) ○ 地域公共交通の維持・確保に対する支援について

⇒ 当市では、運転手の高齢化や「2024年問題」により路線バスの減便・路線縮小が進んでおり、地域の実情に応じた持続可能な交通網を維持するため、路線バス運転手の確保・育成に対する財政支援の拡充や中長期的な担い手確保策としての外国人材の受入れに対する広域的な伴走支援、自家用有償旅客運送の導入に対する伴走支援及び初期導入・運用に係る財政支援について、新規に要望するもの。

(2) **取りやめ**事項：4件

(最重点) ○ (仮称) 県立屋内アイスホッケーリンクの建設について

⇒ 昨年度要望した、市内でのアイスホッケーリンクの減少に伴う全国規模の大会が開催可能な県立屋内アイスホッケーリンクの整備・運営については、要望するきっかけの一つとなった南部町の「ふくちアイスアリーナ」の廃止について、県が令和8年度より市町村所有のスポーツ施設の改修を支援する補助制度を創設し、「ふくちアイスアリーナ」の改修事業が採択され再開される見通しとなったことから、要望を取りやめるもの。

(重 点) ○ 県境を跨ぐ生活交通路線に対する支援について

⇒ 広域的・幹線的な生活路線であるバス路線（大野線）や JR 八戸線について、両路線の維持・確保及び利用促進に向けた協議への関与や各種支援を県に対して要望してきたが、県において協議への関与や路線の維持・確保及び利用促進に向けた各種支援が実施されていることから、要望を取りやめるもの。

(重 点) ○ 八戸駅西土地地区画整理事業の促進について

⇒ 八戸駅西土地地区画整理事業の促進に向けた財政支援を要望してきたが、国庫補助事業費の限度額が少額となったことに伴い、令和9年度以降の要望見込額も少額にとどまる見通しとなったため、当初の重点要望としての目的はおおむね達せられたものと判断し、要望を取りやめるもの。

(重 点) ○ 学校給食費の無償化に対する支援について

⇒ 県の「学校給食費無償化等子育て支援市町村交付金」に係る交付金上限額の算定において、物価変動に応じた給食費単価の見直し及び国主導の無償化制度と県交付金制度の両立について要望してきたが、県において要望内容への対応が行われたことから、要望を取りやめるもの。

(3) **継続（一部新規）**事項：2件

(最重点) ○ 持続可能な漁船漁業への支援について

⇒ 八戸港所属漁船の多くが老朽化・高船齢化による生産性の低下やメンテナンス経費の増大等の課題を抱える中、代船取得に向けた現行の国の支援制度では、漁船の建造費用の上昇による漁業者の費用負担の増加により、代船取得が進んでいない状況にあることから、従来から要望している代船取得制度に係る助成率や助成額上限の引上げ等の制度拡充に向けた国への働きかけに加え、新たに改革型漁船を取得する漁協への上乗せ補助やリース事業者への利子補給についての要望を追加し、一部新規として要望するもの。

（最重点）○ 八戸港の早期本格復旧及び整備促進並びに国際拠点港湾の指定について

⇒ 重要港湾である八戸港は、昨年 12 月に発生した青森県東方沖地震により、ふ頭用地や岸壁をはじめとした港湾施設で極めて甚大な被害を受け、応急復旧により通常の荷役作業を行える程度に機能回復が図られているものの、完全な機能回復及び将来の災害に対する強靱性の確保が必要であることから、従来から要望している八戸港の国際拠点港湾の指定等に加え、八戸港における被災箇所の早期本格復旧を追加し、一部新規として要望するもの。